

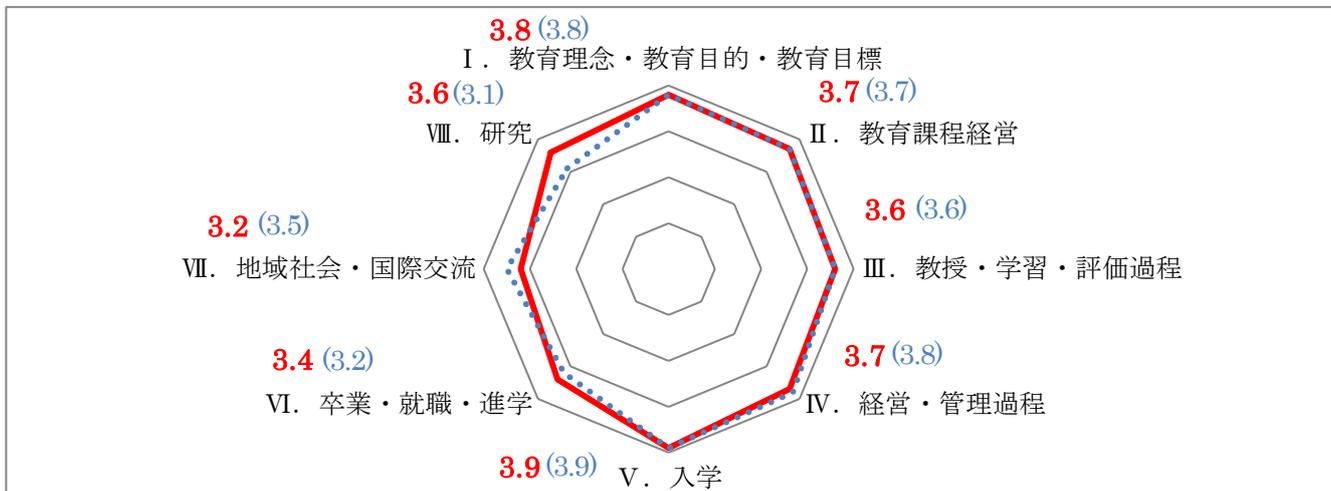
学校自己評価

1. 令和3年度学校運営目標

- 1) 改正カリキュラムを構築し申請準備ができる
- 2) 看護基礎能力を身につけた学生を育成する
- 3) 教育実践力が向上するように研鑽し授業研究や研究活動の成果を発表する
- 4) 設置主体との一貫した考え方にに基づき協働する

— 令和2年度
— 令和3年度

2. 岩国医療センター附属岩国看護学校 令和3年度 自己点検・自己評価結果



評価はⅠ～Ⅶの大項目、128の小項目から構成されている。「4」が当てはまる、「3」がほぼ当てはまる、「2」がやや当てはまる、「1」が当てはまらない、となっている。

Ⅰ. 教育理念・目的・目標

教育理念・教育目的・教育目標の平均点は「3.8」であった。令和4年のカリキュラム改正においては、学生確保や地域医療への人材輩出の観点から、独自性・特殊性・地域性などのニーズを分析した上で教育目的・目標に反映した。また、本校と呉医療センター、浜田医療センターの3校合同カリキュラムも検討を重ね、他校にはまねができないカリキュラムを構築しており、令和4年度から運用となる。

Ⅱ. 教育課程経営

教育課程経営の平均点は、「3.7」であった。学修の到達については明確な考え方(ディプロマポリシー)と根拠をもって編成し、ホームページなどで公開している点が評価された。

Ⅲ. 教授・学習・評価過程

教授・学習・評価過程の平均点は、「3.6」であった。カリキュラム会議/実習会議は必要性に合わせ1回/月程度開催している。各会議を年間計画に沿って行えるように年間スケジュールを立て進めている。

Ⅳ. 経営・管理過程

経営・管理過程の平均点は、「3.7」であった。SWOTクロス分析から戦略を抽出し、BSCを用いて3名程度の教員を1グループとして、「財務の視点」、「顧客の視点」、「学習者と成長の視点」からアクションプランを具体的・計画的にすすめて8割程度を達成している。

V. 入学

入学の平均点は、「3.9」と最も高い点数であった。少子化が進み、山口県においても同じ状況で学生確保には苦慮している。指定校を中心に学校訪問の計画的な実施、業者による進路ガイダンスへの積極的な参加、オープンスクールの開催、出張講義、募集活動等、努力している。昨年からのコロナの影響もあり高校ガイダンスの中止が相次いでいる。そのため、ホームページの適宜更新、Web型オープンスクール以外に高校教諭を対象とした説明会を実施し14名の高校教諭に参加していただき、本校の特徴などを説明した。中学生を対象とした出前講座も行い中長期的な募集活動につなげている。

Ⅵ. 卒業・就職・進学

卒業・就職・進学の平均点は、「3.4」であった。卒業生への支援体制について、昨年度からホームカミングデーを開催して卒業生が自由に話せる場の提供を行い、離職防止にもつながっている。今後も継続的に支援体制を整えたい。

Ⅶ. 地域社会/国際交流

地域社会/国際交流の平均点は、「3.2」であった。学生ボランティアは積極的介入できたがコロナ禍において国際交流は行えなかった。今後、オンラインなどを取り入れ実施したい。

Ⅷ. 研究

研究の平均点は、「3.6」であった。点数は昨年の3.3から上昇した。研究発表数は横ばいだが教員研究助成金を活用して施設を超えた領域別の教員研究活動は継続しているため、来年度発表に向け支援体制を整えたい。